

2010 年度・研究旅行奨励制度【グループ旅行】

名 前	森えりか, 大谷祐季名	研究テーマ	中国人のハングリー精神 ～上海の暮らしを通して～
目的地	国 名	地域・都市名	
	中国	上海	

研究旅行の目的

私たちは、中国は上海の人々の暮らしに焦点をあててみた。近年、中国は万国博覧会が開かれるなど急成長をとげている。そんな中国の人々の暮らしや想いとほどのものだろうか。今回の研究旅行では、「食」「住」「職」の3つの視点から、彼らの生活について調査を行う。私たち日本人は、近年、あらゆる面で保守的になってきていると言われる。起業精神や、物事のより高い次元を求め続ける精神など、私たち日本人が忘れかけているものを、彼ら中国人の生活のなかに見ることができるかもしれない。今回は、成長を続ける中国の都市・上海とその生活に実際にふれ、現在の中国文化やその精神について学びたい。

期待される成果

今回の調査旅行によって、経済成長めまぐるしいと言われる中国の都市・上海の現状を実際に自ら体験することができる。また、その体験を通して、その背景にある彼らの「より良いものを」「もっと上を」等の向上心やハングリー精神の在り方や実態について理解を深めることができる。日本人は現在、「無気力」「無関心」で、特に若者の安定志向が強いと言われている。こんな日本や日本人をもう一度見直し、その問題点と可能性について考えるためには、もっと視野を広くもち、世界に目を向けてみる事が大切であろう。日本は物で溢れ飽和状態の国であるが、その現状に満足しては、日本の様々な分野における成長は止まってしまうだろう。活気ある中国の現状や問題点を学ぶことが、これからの日本について深く考えるための契機や示唆を与えてくれるのではないだろうか。

旅行行程

旅行期間： 2011 年 9 月 8 日～ 9 月 13 日 [6 日間]

第 1 日目 9 月 8 日	南京東路 (上海)	上海有数の繁華街を歩いて、租界時代のクラシカルな西洋建築を歩く。
第 2 日目 9 月 9 日	南京西路、静安寺	昔ながらの古い町並みと、ファッションストリート、新旧二つの顔を見る。
第 3 日目 9 月 10 日	上海万博	世界が注目する祭典に参加して、現在の上海の勢いを体感する。
第 4 日目 9 月 11 日	浦東、外灘 (上海)	19 世紀後半からヨーロッパに開放された上海の軌跡をたどり、今現在の金融の中心である超高層ビル群を歩く。
第 5 日目 9 月 12 日	豫園 (上海)	上海の中で最も中国らしい上海の伝統美に触れる。

【報告書・要旨】

今回私たちは、中国系のコンビニエンス・ストアを中心に調べたが、そこで気付いたことが何点かあった。まず、他国からの観光客やビジネスマンが多い地域には、中国系のコンビニエンス・ストアに比べて圧倒的に日系のそれが多いことである。現地の方にお伺いしたところ、「やはり日本の企業のほうがクオリティの高い商品やサービスを提供している」とおっしゃっていた。また、「私たちは中国の商品をあまり信用していない」という声もあった。もちろん、上海に急速にコンビニエンス・ストアが出来たことは事実である。しかし、質という点からみるとまだ日本の方が勝っているため、観光客の多い地域には日系企業が多いのだろう。上海という都市は国際的に開かれている都市であり、コンビニエンス・ストア業界にとっては絶好の市場である。その中で日系企業のクオリティを目指しながら、競争を続けている中国のコンビニエンス・ストアの現状は、ハングリー精神を顕著に表しているのかもしれない。

また、中国系のコンビニエンス・ストアもやはり、その地域のニーズに合わせて商品やサービスを変えているイメージがあった。路地に入ったところにある現地の方向けのコンビニには、ゆっくりとした時間が流れていた。店員が新聞を読んでいたたり、お喋りをしている光景がよく見られたのである。地元ならではの、という雰囲気であった。それに対し、観光地近くにあるコンビニには日系メーカーの飲料を置いたり、中国のお土産として良さそうなお菓子を大量に置いていたり、ということがあった。

そして実際のところ、上海にコンビニエンス・ストアはたくさんあったが、活気にあふれているのは一部の店舗に限られているような気がした。ここ数年で飛躍的な伸び率を示した中国のコンビニエンス・ストアであるが、現在は少し停滞気味なのかもしれないと感じた。しかし店舗数は日本の郊外と同じくらいの数であり、やはりそこには外資に負けまいとする精神を見て取れた。ハングリー精神を肌で感じ取るということは、とても難しいことである。しかし上海の街に行くと、コンビニエンス・ストアに限らず、その成長ぶりを肌で感じる事が出来る。中国系のコンビニエンス・ストアは、まだ日系のそれに及ばないところがあったのは確かだが、確実にまだ成長できる余地が残されていた。日本の企業、海外の企業に刺激を受けながら、まだまだ上を目指していきたいという躍動感が上海には、あった。日本の停滞した経済のヒントになる、「ハングリー精神」。これは日本がもう一度思い出すべき大切な精神である。

【報告書】 国際文化学科室で閲覧できます。